

座中作法等萬事引請取扱職十老たりとも筋違候義は無遠慮助言いたし万一不相用もの有之候ハ、早速可申出候且又仕來之儀ニ而も不宜儀は相改筋能成様心を配り可申候不正之儀有之もの共は吟味之儀夫々座法に申付品ニ寄而は吟味之儀も申立候程相心得可申候總而座頭共之儀針治導引音曲等之本業を第二に心懸一同風儀すなをに相成奢ケ間敷事ハ勿論身分不相應之儀無之、堅座取締之儀厚く心掛ケ夫々江可談事

〔評定代官盲人并等之類〕寛政三亥年七月廿三日

總録并一同并申渡

近年座中のも一同風儀猥に相成針治音曲等之家業を忘れ利欲のみに耽り不法之訴訟を企物毎我意之振廻多く次第に放逸に成行候處總録を始め頭取候もの共改正之心付も無之却而我意募ル様も有之由相聞不埒之至に候逸々御吟味之上急度も可被仰付候得共盲人の事ニ候間御宥恕を以御咎の御沙汰ニは不被及候以來末々迄風儀相改銘々藝能相勵不法不行跡ケ間敷儀等無之様厚く教示可仕候依之此度取締役之者兩人被仰付候間座中作法等万事懸相談取計一同取締候様可仕候○又見天保集成絲繪錄八十

行事

〔當道要集〕年中議式

- 一 正月四日、二老三老への禮大式事、二老へ小式事、三老へつかふる事
- 一 九日、こき入總檢校への禮、兩式事ともにつかふる、二老三老への禮なき也、小寄合にても節句節句有合ハ、三老迄禮有之事、附此日不可仕出吉書にも不出事
- 一 總檢校公方様江の御禮、御玄關迄乗物御免成來、定日ハ年による事、但進物ハ一束一卷
- 一 同十一日、吉書、此外寄合ハ總檢校次第日定事
- 一 同廿九日、心月月望○望下志初一かたの總檢校二老三老門派の頭時の年行事、并新檢校紫衣